
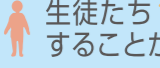





プロジェクト・ワイルドの仕組み

プロジェクト・ワイルドのワークショップは、一般指導者（エドゥケーター）と上級指導者（ファシリテーター）によってのみ実施することができます。

-  一般指導者（エドゥケーター）  生徒たち  にプロジェクト・ワイルドを実施することができる人
-  上級指導者（ファシリテーター）  一般指導者の資格をもち、さらに一般指導者を養成することができる人



講習会の開催予定日や参加費などの詳しい情報はプロジェクト・ワイルド事務局のホームページに掲載中です。

プロジェクト・ワイルドを利用する

指導者を探す

課外授業やクラブ活動などでの実施要望がありましたら事務局まで

- ① 実施予定日
- ② 実施場所
- ③ 参加人数 など

をご連絡ください。

全国で活躍中の講師を派遣いたします。

指導者になる（資格は18歳以上）



資格取得後に学校の授業で生徒たちにプロジェクト・ワイルドを実施している様子

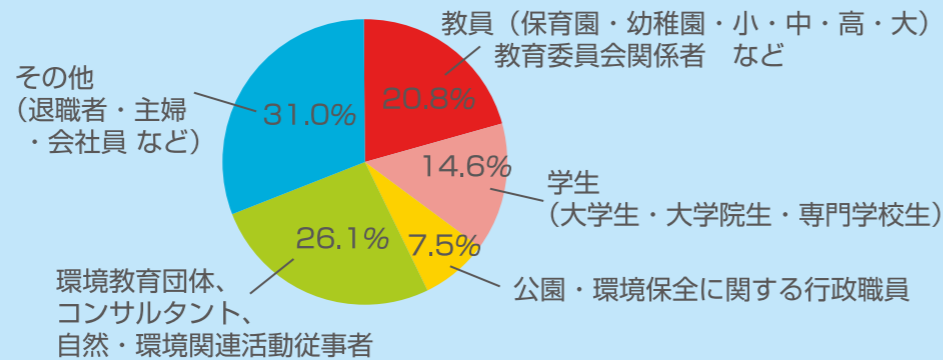
一般指導者養成講習会を受講してください。講習会ではプロジェクト・ワイルドの目的や理念、テキストの活用方法、生徒たちへの指導法などを模擬体験を通して学んでいただけます。

- * テキストは講習会でのみ配布されます。
- * テキストは、“目的”を明確にしながら“進め方”に沿ってスムーズに授業を進めることができるよう分かりやすくまとめられています。
- * プロジェクト・ワイルドのもう一つのプログラム本編・水辺編の講習会を受講していただいた上で、サイエンス&シビックス編の講習会に参加していただくと、よりわかりやすくアクティビティについて理解していただけます。

サイエンス&シビックス編指導者の内訳

(2009年3月末現在)

環境関連団体の関係者だけでなく、教員および教育委員会関係者や教育者をめざす学生など多くの方が取得され、教育現場などでも利用されています。



プロジェクト・ワイルドは環境教育促進法における人材認定等事業*として環境省・国土交通省から登録を受けています。

* 環境保全に関する指導者を育成又は認定している事業の中で、主務大臣（環境大臣・文部科学大臣・農林水産大臣・経済産業大臣・国土交通大臣）が一定の基準を満たしている事業を認定・登録をする制度です。 2009年3月末現在、33団体が登録されています。

一般財団法人 公園財団 プロジェクトワイルド事務局

e-mail : projectwild@prfj.or.jp

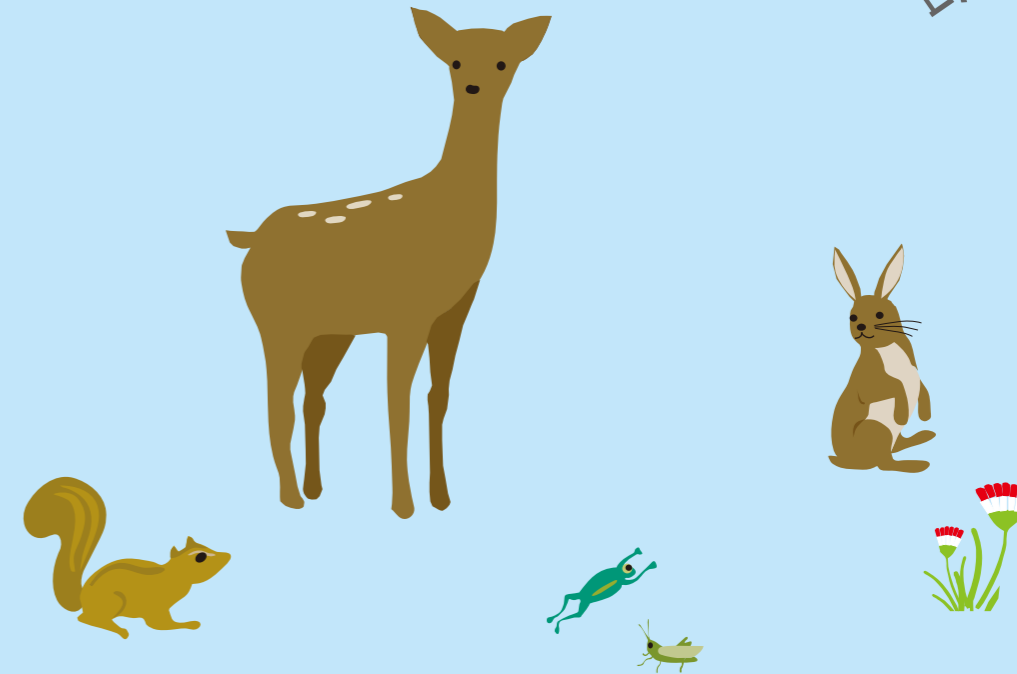
URL : <http://www.projectwild.jp/>

〒112-0014 東京都文京区関口1-47-12 江戸川橋ビル2階

TEL:03-6674-1188/FAX:03-6674-1190

環境教育プログラム プロジェクト・ワイルド サイエンス&シビックス編

科学と社会学と環境教育の融合



一般財団法人 公園財団

このパンフレットは日産科学振興財団の理科/環境教育助成を受けて作成しました

プロジェクト・ワイルド Project Wildlife In Learning Design

野生生物を題材として環境を学ぶプログラムです。「自然を大切に」と理解するだけでなく「自然や環境のために行動できる人」の育成を目的としています。米国にて、1980年から教育者・環境保全や自然保護に関わる人・企業や産業の代表者など様々な視点をもつ多くの人々の協力により開発が続けられており、現在では150万人以上の指導者が養成されています。また、日本・カナダ・チェコ・インド・アイスランド・スウェーデンなど 世界各国の環境教育現場でも導入されています。日本では、野生生物（陸生・水生）とその生息地について 模擬体験を通して学ぶ“本編”と“水辺編”、人間の生活が野生生物へ及ぼす影響を それらが共有する地域について調査研究し 社会の仕組みを知ることを通して学ぶ“サイエンス&シビックス編”のプログラムが実施されています。

アクティビティの特徴

* プロジェクト・ワイルドではプログラム（活動）をアクティビティと呼んでいます。

- 1 生徒たち主体の体験型学習で誰もが楽しく参加することができます。
- 2 多くの実地試験を経て科学的裏付けがされた根拠に基づいています。
- 3 授業の形態や地域の特性などに合わせたアレンジができます。
- 4 グループ作業やプレゼンテーションの機会が多く、コミュニケーション能力、発表能力を磨くことができます。
- 5 内発的な疑問「なぜ？」を促し、解決までの過程を重視しているため建設的に考える力が身につきます。
- 6 様々な考えを共有しながら進めていき、他の意見を取り入れ多くの『気づき』を得ることができ、さらなる深い考えへと発展させます。



サイエンス&シビックス編

地域の生物をとりまく環境には、水質汚染や土地利用による緑の減少、生物と人間の共存など多くの問題があり、それらには経済的な利害や法的な仕組みなどが複雑に絡んでいます。

サイエンス&シビックス編は、科学と社会のしくみなどを包括的に学習し、環境問題の仕組みを理解し、解決するための知識と行動を起こす方法を学ぶプログラムです。



サイエンス&シビックス編テキスト

段階をおって理解していけるように四つの主題から構成されています

導入

■ 気づきと理解 ■

生物のおかれている問題、またその背景（生息域の変化など）を理解するアクティビティです。

アクティビティ数：4

サイエンス

■ 生息地の調査と評価 ■

生物とその生物をとりまく環境要素について調査するためのアクティビティです。調査の方法や技術を学び、得られた結果から自然の仕組みなどを理解します。

アクティビティ数：11

シビックス

■ 社会のしくみと参加の方法 ■

環境対策に関する立法機関・行政機関・司法機関・民間活動（メディア・ボランティアなど）の仕組みや機能について学ぶアクティビティです。国・都道府県・地方自治体のそれぞれのレベルで理解を深めます。

アクティビティ数：13

行動計画

■ 行動に向けて ■

問題解決の行動計画を立てるアクティビティです。必要な情報やその収集方法を考え、行動に移します。そして、どのくらい目標を達成することができたかを評価し、さらなる活動へと発展させます。

アクティビティ数：7

複数のアクティビティを組み合わせて大きなテーマを学ぶこともできます

アクティビティ総数：35

アクティビティ例 昔と今 ■ 気づきと理解 ■ より

- <目 標> ① 人間による開発が野生生物の生息地と個体群にどのような影響を与えるかを様々な例をあげて説明する
② 人工物が在来種や外来種に与えた影響について説明する

<対象年齢> 中学生～高校生 <教科> 環境／理科／社会科

<時間> 45分授業×1～2回 <場所> 室内

<準備するもの> 航空写真／マス目入りの透明シート（サイエンス&シビックス編テキスト添付）

<進め方>

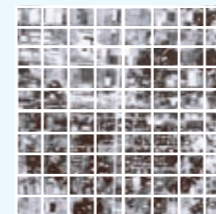
- ① 時代の異なる地域の航空写真を用意し、土地の開発により変化したものを探します。（図1）
例えば、新しくつくられたもの（道路、住居・工場・コンビニなどの建物、農地など）、変化したもの（河川など）、失われたもの（森林・草地・湿地など）に注目します。
- ② 2種類の航空写真の上にマス目入り透明シートを重ねてそれぞれの土地の状態数を数え比較します。（表1）



1947年 2002年
（図1）時代の異なる地域の同じ場所の航空写真

（表1）土地の状態数

	1947年	2002年	増減率(%)
道路・鉄道	6 マス	12 マス	100%
森林・草地・湿地	11 マス	6 マス	△45%
住居などの建物	17 マス	27 マス	59%
農地	19 マス	8 マス	△58%
河川	11 マス	11 マス	0%



（図2）航空写真にマス目入り透明シートを重ねたもの

- ③ その土地に生息していた在来生物を調べ、生息数などの変化について考察します。（表2）

<発展>

- ・ 土地開発が人間の生活だけではなく、在来生物に与えた多大な影響（有益・弊害）について考察させることで、絶滅危惧種などの問題が身近に起こっていることを認識することができます。
- ・ 土地開発と在来生物保全のバランスについて考察し、持続可能な開発の重要性について理解することができます。
- ・ 関連する法律および地方自治体の条例の内容や成立理由について調べ、施行後に解決した問題点や対策が不十分な点も含め、行政の取り組みを理解することができます。さらに、対策が不十分な点を解決する方法と、土地開発する際に重要となる新たな取り組みを行政レベルから個人レベルに分けて考察することができます。
- ・ 全体を通して、環境保全に関する知識を増やし、今後環境保全について考える際の一つの指針として役立てることができます。

（表2）生物とその変化

生物名	変化
キタキツネ	① 以前近くに時々現れていたが、今は全く見られなくなった
カラス	昔に比べて数は増えたが、一時期よりゴミをあさる光景は見られなくなった
ネズミ	以前はボタンの家で走り回る音を聞いていたが、現在は駅の周辺でみかけるだけとなった

アクティビティをアレンジして対象年齢・参加人数・教科・地域に合わせて実施することができます